



北海道の病院における病院医師規模と労働生産性の関係についての検討

著者	中村 利仁
号	78
学位授与番号	2612
URL	http://hdl.handle.net/10097/45838

氏 名（本籍）	なかむらとしひと 中村利仁
学 位 の 種 類	博 士（医 学）
学 位 記 番 号	医 博 第 2 6 1 2 号
学位授与年月日	平 成 20 年 9 月 10 日
学位授与の条件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研 究 科 専 攻	東北大学大学院医学系研究科 （博士課程）医科学専攻
学 位 論 文 題 目	北海道の病院における病院医師規模と労働生産性の関係についての検討

（主 査）

論文審査委員	教授 濃 沼 信 夫	教授 本 郷 道 夫
	教授 岡 芳 知	

論文内容要旨

病院に勤務する医師という希少な医療資源の分配の現状を明らかにし、また個々の病院に対して採用すべき医師不足対策を具体的に検討するため、病院の特性を規模と機能の両面から、すなわち病院に勤務する医師の常勤換算員数（以下、病院医師規模とする）と診療収入の割合から類型化し、また、医師の労働生産性の分布とその制約条件等を明らかにすることを目的とした。対象は北海道内の病院620施設（平成17年10月現在）。病院報告に準じた調査用紙を作成して郵送し、回収した。246通を回収し、記入漏れ等を検討して182施設のデータを採用した。労働生産性の指標として、医師一人当たり患者数、診療収入等を比較検討した。医師数に規模の経済は見られなかった。病院医師規模の対数を取ると、入院収入に占める特掲診療料等の割合（以下、入院特掲診療料等収入の割合）との間に弱い相関が見られた。病院医師規模と入院特掲診療料等収入の割合で4群に分けると、病院医師規模10人以上、入院特掲診療料等収入の割合50%以上の群で、医師一人当たり退院患者数と医師一人当たり看護職員数との間に弱い相関を、医師規模が40人を超える病院でやや強い相関を示した。病院医師規模が大きい施設では、医師一人当たり退院患者数は、医師一人当たり看護職員数によって制約されている可能性が示唆された。

審 査 結 果 の 要 旨

病院に勤務する医師という希少な医療資源の分配の現状を明らかにし、個々の病院に対して採用すべき医師不足対策を具体的に検討することを目的に作成された論文である。病院の特性を規模と機能の両面から、病院に勤務する医師の常勤換算員数（以下、病院医師規模）と診療収入の割合から類型化し、また、医師の労働生産性の分布とその制約条件等を明らかにしている。

北海道内の病院 620 施設（平成 17 年 10 月現在）を対象とし、病院報告に準じた調査用紙を作成して郵送、回収したものである。246 通を回収し、記入漏れ等を検討して 182 施設のデータを分析している。労働生産性の指標としては、医師一人当たり患者数、診療収入等を比較検討している。

結果として、医師数に規模の経済は見られないが、病院医師規模の対数を取ると、入院収入に占める特掲診療料等の割合（以下、入院特掲診療料等収入の割合）との間に弱い相関がみられる。病院医師規模と入院特掲診療料等収入の割合で 4 群に分けると、病院医師規模 10 人以上、入院特掲診療料等収入の割合 50% 以上の群で、医師一人当たり退院患者数と医師一人当たり看護職員数との間に弱い相関がみられる。また、医師規模が 40 人を超える病院でやや強い相関がある。病院医師規模が大きい施設では、医師一人当たり退院患者数は、医師一人当たり看護職員数によって制約されている可能性のあることが示唆される。

よって、本論文は博士（医学）の学位論文として合格と認める。

